

学習指導案 略案様式（特別の教科 道徳を除く）

5年1組		指導者	〇〇〇〇	教科等	算数科
単元	単元名等	速さ			
	単元の評価規準（目標）	知識・技能	○速さの意味及び表し方について理解し、それを求めることができる。		
		思考・判断・表現	◆速さの <u>関係に着目し、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を考察し、それらを日常生活に生かすことができる。</u>		
		主体的に学習に取り組む態度	○速さに着目し、単位量あたりの大きさを <u>用いて比べることのよさに気づき、生活や学習に活用しようとしている。</u> ○単位量あたりの大きさを活用できる場面を身の回りから <u>見つけようとしている。</u>		
	単元の学習展開				
	導入	□単元の学習計画を確認し、学習の見通しを持つ			
展開	□数学的活動を通じて、速さについて理解し、その表し方を考察する ・速さ（時速）について理解し、それを求めることができるようになる ・速さに複数の種類があることを知り、それを求めることができるようになる ・3つ以上のものの速さを比べたり、いつでも比べられるようにしたりする方法を考察する				
終末	□単元全体を振り返り、速さについて分かったことやもっと知りたいことをまとめる ・単位量あたりの大きさを活用することの有効性に気づき、身の回りからその場面を探そうとする				

本時 (3/全5時間)	ねらい	速さを表す3つの <u>単位時間</u> について、日常生活で出会う事象を基に、それぞれの単位時間での捉えやすさを比較することによって、 <u>目的に応じた単位時間を考えることができるようにする。</u> (下線部・・・評価基準【◆思考・判断・表現 ノートの記述】)		
	学習過程	<p>「めあて」や『課題』の確認 「速さのいろいろな種類について考えよう」 『なぜ、速さには複数の種類があるのだろうか』</p> <p>本時で学んだことの『まとめ』や「振り返り」 『求めるものによっては、分速や秒速で表した方がわかりやすい場合がある』 「速さ以外でも、同じものの表し方が複数あるものはどんな風に使い分けているのだろうか」</p>		
	努力を要す状況の児童生徒に対する手立て	【予想されるつまずき】	【必要な支援・手立て】	
		道のり÷時間が速さとなる関係をとらえることが難しい	時計で1分や1秒の量感をつかませ、グラウンドや廊下などの具体物の長さの関係を速さでとらえさせる	
	商が少数となる計算が定着していない	計算が複雑な場面では電卓等を使用させる		
	【個】集中の持続が難しい	プリントの配布など、離席できる場面を設定する		